

めあて

日本の伝統的な楽器である箏・尺八の演奏を聴く、体験することにより、伝統文化について興味・関心を深め伝統音楽に親しもうとする心情を育てる。

対象：クラス単位・学年単位

対象

小4

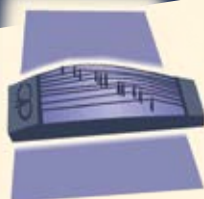
小5

小6

中1

中2

箏・尺八



授業の流れ (基本プラン) 1～2時限

あいさつ(講師紹介)

演奏

講話

体験

質問

演奏

- ◆演奏◆ 春の海、ろくだん しら六段の調べ、さくらさくら等
《生の演奏を聴くことで魅力を感じさせる》
- ◆講話◆ 箏・尺八の材質と歴史、奏法や表現方法について
《歴史的背景などについて話をし、身近なものであることに気づいてもらう》
- ◆体験◆ 2班(箏・尺八)に分かれて体験
箏1面に2～3人で体験 尺八は水道管の尺八を使用して体験
《自由に触れる、表現することで箏・尺八に対する関心を高める》
- ◆質問◆ 体験したことでの疑問、知りたいこと等を質問してみましょう
- ◆演奏◆ 体験してから演奏を聴くことで箏・尺八への関心を高める

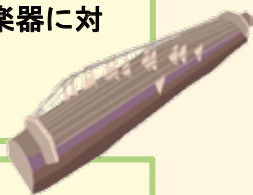
(例) えてんらくいまよう越天楽今様を生徒のリコーダーと合奏



講 話

箏とは・・・

日本の伝統楽器。一般に（こと）と呼ばれ「琴」の字をあてられますが、正しくは「箏」です。13本の^{げん}絃を柱（じ）を用いて張り音程を調節し、奏者の右手にはめた爪によって弦をはじいて音を出し演奏します。流派は、主に山田流^{やまだりゅう}と生田流^{いくたりゅう}で、山田流は丸爪を用い正面に構え、生田流は角爪を用い、この角を有効に使うため楽器に対し左斜め45度に構えます。



演 奏



尺八とは・・・

日本の伝統的な木管楽器。標準の管長が一尺八寸（約54.5cm）であることから尺八と呼ばれています。真竹^{まだけ}の根本を使い、7個の竹の節を含むようにして作るものが一般的で、上部の^{うたくち}歌口に息を吹きつけて音をだします。^{しゅこう}手孔は前面に4つ、背面に1つです。



体 験



☆実施校からの声☆

- ・講師の先生による演奏をととても真剣に聞いていた。箏や尺八などの伝統楽器は、CDやDVDでは聞きとれない繊細な響きがあるので、生の演奏にふれることは絶対に必要だと感じた。
- ・楽器を十分に用意していただき、一人一人がそれぞれの楽器を体験することができ、みな満足であった。